

2024年度 事業報告書



一般社団法人 全日本囲碁連合

1. 公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）への登録、及び事業協力

JOC加盟申請に必要な書類ならびに諸規程を、他のJOC加盟団体の事例を参考にしながら、スポーツ庁が策定している中央競技団体向けの「スポーツ団体ガバナンスコード」を確認し、準備を進め、2021年7月21日にJOC総務部にJOCへの加盟申請書を提出した。現在も継続審議をいただいている状況である。

第20回アジア競技大会（愛知・名古屋大会）以降に開催が計画されているOCA主催の国際大会での囲碁・ペア碁の種目採用を目指し、日本オリンピック委員会（JOC）への加盟に向けた働きかけを進めていく。

2. 代表選手及び役員の選定及び派遣

今年度は、当法人から選手及び役員を派遣する大会は開催されなかった。今後、JOCを通じて選手を派遣する国際総合競技大会、IMSA主催のマインドスポーツの国際大会が開催されることになった際には、当法人から派遣を行う。

なお、IMSAの会議は対面で実施されたため、国際囲碁連盟（IGF）から役職員が派遣され、会議に参加した。

3. 選手の選考基準の策定

当法人から派遣する選手の選考基準を明確化するため選手選考規程を2021年6月28日に実施した理事会で審議し承認した。

この選手選考規程に基づき、第19回アジア競技大会囲碁競技に派遣する選手の選考基準を策定し、2023年1月11日に開催した役員会にて審議、承認を行い、この基準をもって2023年1月から2月に選手選考を実施した。

今後も当法人から選手・役員を派遣することになった場合に、選手選考規程を元に、選考基準を策定して、その基準に基づいて選考・派遣を進めていく。

4. 参加国による競技ルールを取決め、調整及び国際会議出席者の推選

今年度は国際マインドスポーツ協会（IMSA）が主催する国際大会が実施されなかったため、競技ルールの取り決め等の打ち合わせは実施しなかった。

なお、ここ数年、国際囲碁連盟（IGF）及び、プロ棋士が参加する国際棋戦において、中国より統一ルールを策定する動きが出ており、国際的に日本囲碁界を代表する統括団体として、世界における囲碁の基本ルールが日本ルールから変更されないように、今後の状況を注視し、日本ルールを採用する関係国と連携して対応していく。

5. 選手の育成、指導、強化

5.1 2024年度 選手強化合宿

将来のOCA主催の国際総合競技大会やIMSA主催のマインドスポーツ大会に向け、日本囲碁界の男女トッププロ棋士、今後活躍が期待される若手棋士を対象として、強化合宿を実施した。

通常の合宿では、これまで実施していなかった他競技団体との交流やメンタルトレーニングの講習をメニューに導入して、参加した選手からは有意義な時間だったなどの感想をもらい、大変好評であった、来年度以降も継続して実施していきたい。

【 開催日 】

2025年2月14日（金）～15日（土）

【 実施会場 】

都内会議室

【 参加者：計25名 】

囲碁ナショナルチーム（碁・Goジャパン）に参加する
男女トップ棋士、若手棋士及び、監督・コーチ20名と当法人役職員5名



参加者の記念撮影

● 参加棋士 ※タイトル・段位は合宿実施時のもの



一力遼棋聖



芝野虎丸九段



関航太郎九段



佐田篤史七段



広瀬優一七段



大竹優七段



福岡航太郎七段



酒井佑規六段



三浦太郎四段



表悠斗三段



桑原樹二段



藤田怜央初段



藤沢里菜
女流本因坊



上野愛咲美
女流立葵杯



上野梨紗
女流棋聖



牛栄子四段



柳原咲輝二段

● 監督・コーチ



高尾紳路監督



山下敬吾コーチ



瀬戸大樹コーチ

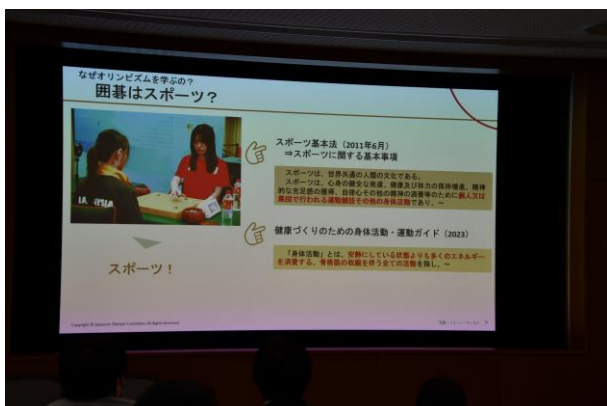


小山空也コーチ

● 強化対局



● 小口貴久氏（JOCエリートアカデミーディレクター）の講習：オリンピズムについて



● 谷本歩実氏（柔道女子金メダリスト・JOC理事）の講習：勝負の心構えについて



● 近藤みどり氏（JISS スポーツ医学研究部門 心理グループ）の講習：モチベーションの維持



6. アンチドーピングへの教育と啓発

6.1 JADA主催のフォーラム、教育会議への出席

JADA主催のアンチドーピングに関するフォーラムや教育会議に事務局職員が出席し、アンチドーピングに関する情報収集と学習を実施した。

6.2 日本スポーツフェアネス推進機構（J-Fairness）への加盟

国内のドーピング検査の方針を決めるとともに、アンチ・ドーピング体制整備を推進する日本スポーツフェアネス推進機構（J-Fairness）に加盟し、国際囲碁連盟（IGF）が主催して開催した「第44回世界アマチュア囲碁選手権戦」でのドーピング検査に協力した。

7. その他前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

7.1 クラウドファンディングの実施

法人の活動資金の確保ならびに安定的な運営を行うため、個人向けのクラウドファンディングを実施した。

2024年7月1日より2か月間実施し、124名の方々から目標金額（500万円）を上回って5,620,000円もの支援をいただき、下記の用途に充当することができた。

- ① 強化合宿の費用
- ② 全日本囲碁連合の法人運営費用
- ③ 将来の全日本囲碁連合から選手を派遣する際の費用



7.2 当法人構成団体の事業に対する協力

社員である日本棋院、関西棋院、日本ペア碁協会の各団体が主催する以下の大会・イベントに対して協力をを行った。

日本棋院 創立100周年記念式典・祝賀会：2024年7月17日 開催

7.3 定期会合の実施

日本棋院、関西棋院、日本ペア碁協会から選出された当法人の理事・監事が集まり、定期会合を実施した。囲碁・ペア碁における各団体の事業や国内外の課題に関して、活発な意見交換を行った。

8. 2024年度活動の総括

前年度に開催された中国・杭州市での「第19回アジア競技大会」の囲碁競技に、JOCを通じて日本代表選手を無事に派遣することができ、男子団体戦と女子団体戦で銅メダルを獲得することができた。

2026年に愛知・名古屋で行われる「第20回アジア競技大会」においては、残念ながら囲碁・ペア碁の競技採用はかなわなかったが、将来のOCA主催の国際大会やマインドスポーツ大会への選手・役員の派遣、成績向上に向けて、準備や取り組みを進めていきたい。

また、引き続き必要な諸規程の整備を行うとともに、当法人の安定的な活動のために、運営資金の調達に力を入れていきたい。

9. 来年度に向けた課題

9.1 安定した法人運営のための運営資金の調達

9.2 日本オリンピック委員会（JOC）への加盟承認の働きかけ

9.3 アジアオリンピック評議会（OCA）主催の国際大会への囲碁・ペア碁の正式種目採用の働きかけ